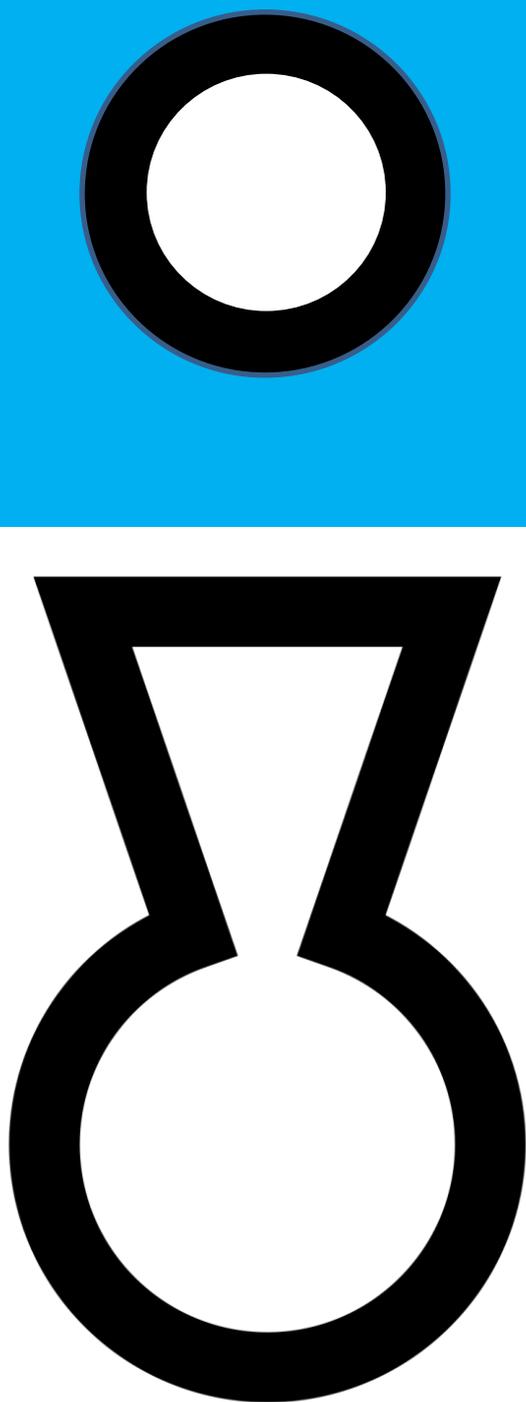


学習ワークブック

原始古代
やまなし
発見！！

山梨県立
考古博物館



_____小学校 _____年_____組

名前_____

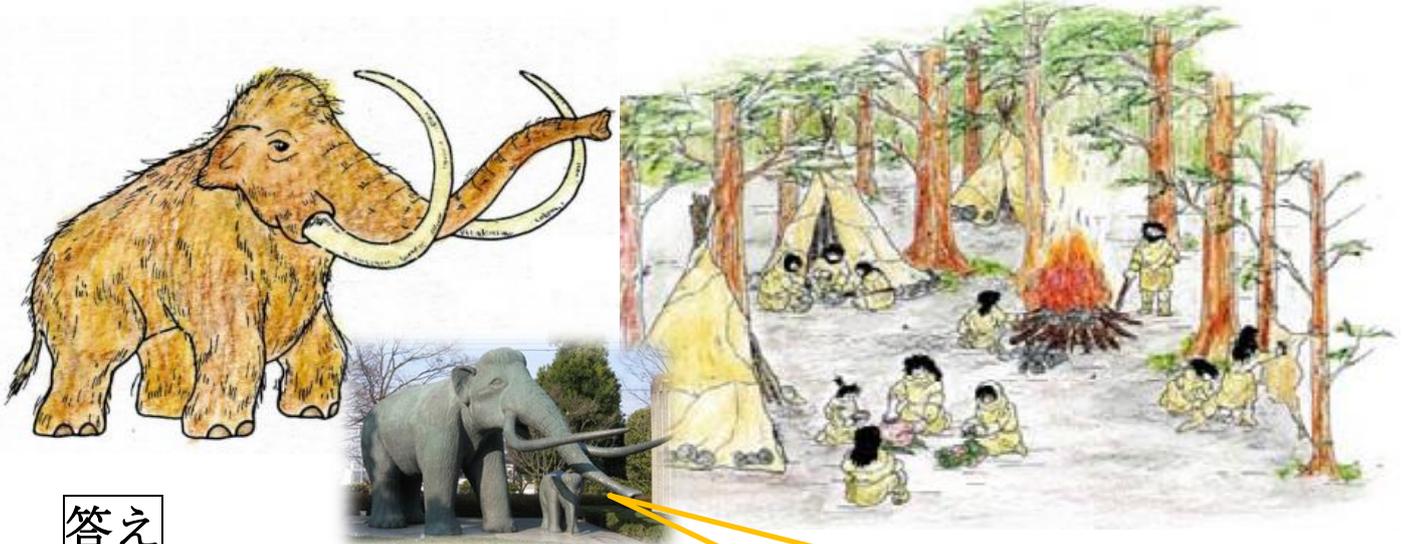
1

きゅうせっきじだい 旧石器時代

およそ
16000年以上前

気候：平均気温が現在より7度ほど低く、寒い。
 生活：旅をしながらナウマンゾウなどの狩りをしたり、木の実や植物をとったりして食べた。
 道具：石で作った道具（石器）を使う。食べ物を焼いたり蒸したりするための焼き石のかたまりも見つかった。

① 下の絵の動物は、3万年ぐらい前まで、山梨県に住んでいた動物です。旧石器時代の人は、下の絵のような生活をしていて、この動物も食べていました。この動物は、何という動物でしょうか？



答え

【

考古博物館の前にもいるよ。
マンモスではないゾウ～

② この時代の人々は、長野県の和田峠などで採取されたこの石を材料にして、道具（石器）を作り、生活の中で使っていました。この石の名前は何でしょうか？



博物館の受付の前にあるよ。さわってみてね。
 火山でできた自然のガラスで、割れると鋭い刃ができるよ。



答え

【

左の石でつくられた石器

2

縄文時代

およそ

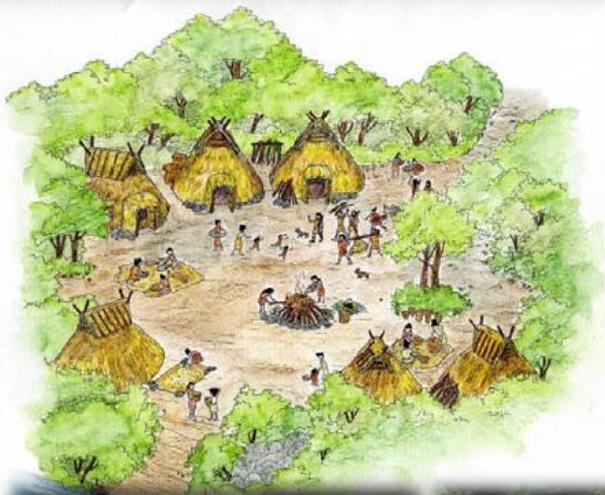
16000年前から
2300年前

気候：中期は暖かいが、後期は寒くなった。

生活：ムラができる。お祭りをする。お墓をつくる。
大珠や耳飾のようなアクセサリーを身につける。

道具：土で作った道具（土器）を使い始める。
弓矢を使い始める。

1 下の絵は、縄文時代の集落の様子です。【 】に合う言葉を入れましょう。



人々は、穴を掘って造った

【 】住居という家を、

広場を囲むように建てました。そして、木の実や

魚・貝、イノシシやシカなどの動物をとって食べ

る生活をしていました。また、縄目の文様をつけた

【 】土器が作られ、

これで食べ物を煮たり、保存したりしました。



古代広場にはこの復元住居があります。中は意外に広いので、40人くらい入れるよ。頭をぶつけないように気をつけてね。

2 縄文土器は、主に煮炊き（料理）に使われましたが、作られた年代によって、形や文様が違います。展示されている縄文土器を見つけたら、○をつけましょう。



深鉢形土器

一の沢遺跡（笛吹市）
ヘビがっています。

()



深鉢形土器

殿林遺跡（甲州市）
ヘビだらけです。

()



人面装飾付土器

海道前C遺跡（北杜市）
縄文のお母さん。

()



水煙文土器

安道寺遺跡（甲州市）
滝壺の水煙のよう。

()

- ③ 縄文人たちの中には、下の写真のようなアクセサリーを身につけている人もいました。写真のアクセサリーを見つけたら○をつけましょう。



玦状耳かざり
花鳥山遺跡（笛吹市）

()



土製耳かざり
金生遺跡（北杜市）

()



リーダーを示すものだよ。

たいしゅ
大珠
三光遺跡
（笛吹市）
男性のお墓から
発見されることが
多いです。

()

女性が付けていました。土偶をよく見ると、付いているかも。

- ④ 縄文人たちは、土偶という土の人形をつくりました。形や大きさはいろいろですが、共通するところもあります。



一の沢遺跡（笛吹市）
出土土偶「いっちゃん」



おおきどいせき
大木戸遺跡（甲州市）
出土土偶



金生遺跡（北杜市）出土土偶

- ① 土偶の体は、壊れているものと、壊れていないものでは、どちらが多いでしょうか。
- ア こわれているもの イ こわれていないもの
- ② 土偶の多くは、男性と女性のどちらをモデルにしているのでしょうか。
- ア 男性 イ 女性

☆ 土偶 一〇メモ ☆ 土偶は女性像が多いことから、安産や多産のお守りという説や、体の一部が欠けた土偶が多いことから、壊すことによって体の悪いところを治すおまじないとして使われたという説などがあります。山梨県笛吹市と甲州市勝沼町にまたがる釈迦堂遺跡からは、1116個とたいへん多くの土偶が出土しました。これは青森県三内丸山遺跡につぐ数の多さです。



3

やよいじだい 弥生時代

紀元前3世紀ごろから
紀元3世紀ごろ

気候：現在とほぼ同じ。

生活：稲作（米作り）が広まる。低い場所には水田をつくり、ムラには倉庫や大きな建物が建てられる。戦（争い・戦争）がおきる。

道具：青銅器、鉄器など。

弥生時代には、中国や朝鮮半島から移り住んだ人々によって、日本に米づくりが伝わってきました。人々の生活は、狩りの獲物や木の実などを主食とする生活から、自分たちで作物を育て、それを食べる生活へと大きく変化しました。



★なぜ弥生時代というの？
東京都文京区弥生町の遺跡から、この時代の土器（弥生土器）が初めて見つかったからだよ。

1 『米づくり』につかわれた道具が展示してあります。道具の名前を書きましょう。

①



稲穂をかりとった道具だよ。
東山北遺跡（甲府市）

②

木うすの中に稲などの穀物を入れ、これで脱穀したよ。
油田遺跡（南アルプス市）



【

】

【

】

2 やよいどき、縄文土器と比べて、どんな違いがあるでしょうか？



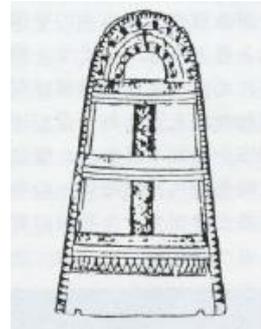
弥生土器は、縄文土器と比べると、

- ① 文様が（ たくさんある。 あまりない。 ）
- ② 厚さが（ 厚い。 薄い。 ）
- ③ 形が（ 複雑な形。 シンプルな形。 ）

③ 弥生時代には、いろいろな青銅器が作られました。下の青銅器は、お祭りなどの祭りに使われた道具だと考えられています。なんという青銅器でしょうか？

【 答え 】

展示してあるものは、木の枝につるしてあります。どんな音がするのか、やさしく鳴らしてみよう。強くたたかないでください。



④ 弥生時代について、正しいと思う方に○をつけましょう。

① 弥生時代の矢尻は、縄文時代の矢尻より【 小さい 大きい 】です。

その理由は、【 ナウマンゾウの狩りをするから 戦 がはじまったから 】だと考えられています。

縄文時代の矢尻（弓矢のとがったところ）は、石を割って作った小型のものでした。しかし弥生時代になると、石を磨いて作った、大きくて重い矢尻があらわれます。これは相手への打撃力を高めたもの、つまり武器だと考えられます。



磨製石鏃 金の尾遺跡（甲斐市）

② 人々をまとめる指導者が現れ、米づくりなどを指導するようになりました。しだいに富をもつ者も出てきて、貧富の差がうまれました。生活の場は、それまでの【 高地 低地 】から、【 高地 低地 】へと変化しました。

☆ 弥生時代—ロメモ ☆ たくさんの「クニ」に分かれて争っていた弥生時代

3世紀ごろの日本は、たくさんのクニがありました。30あまりの小さなクニをしたがえた、卑弥呼という女王がおさめている「邪馬台国」というクニがあったことが、中国の歴史書「魏志」の中の「倭人伝」に書かれています。中国の歴史書によると、このころの日本はクニとクニが争い、たくさんの戦争が起きていたようです。

☆ —ロメモその2 古代衣装 ☆

考古博物館では古代衣装のレプリカを貸し出しています。授業などで実際に着てみて、古代の人々の生活ぶりや、古代の人々の気持ちを考えてみてはどうでしょう。先生に相談してみてくださいね！



4 ^{ならじだい} 奈良時代の ^{ぶんぼうぐ} 文房具です。みんなが ^{つか} 使っているものと ^{くら} 比べてみましょう。



ノート



(例) 山梨から都に運ばれた税

- あしぎぬ (質の悪い絹)
- 米
- ^{しかがわ}鹿皮
- ^{あさぬの}麻布
- ^{くさむらさき}草紫 など



えんぴつ



筆



けしごむ



小刀

< 鎌倉・戦国時代 >

1 ^{かまくらじだい} 鎌倉時代から ^{えどじだい} 江戸時代が始まるまでのおよそ400年間を、^{ちゅうせい} 中世と呼びます。 ^{ぶし} 武士が ^{とうじょう} 登場し、 ^{いくさ} たくさんの戦が ^お 起こりました。

山梨県内の ^{ちゅうせい} 中世の遺跡からは、暮らしの道具の他に、寺や ^{はか} 墓の ^{あと} 跡もいくつも見つかり、^{かそう} 火葬した ^{ほね} 骨を ^{おさ} 納める ^{つぼ} 壺や、^{いたとうば} 板塔婆、^{ごりんとう} 五輪塔、^{ろくどうせん} 六道銭などが ^{しゅつど} 出土しました。六道銭は ^{まよ} 魔除けのおまじないや、^{さんす} 三途の川を ^{わた} 渡るときの ^{つうこうりょう} 通行料として ^{いっしょ} 一緒に埋められたと考えられ、^{しゅつどひん} 出土品から中世の人々の ^{しんこう} 信仰や ^{しゅうかん} 習慣について知ることができます。



これらの ^{てんじ} 展示を見つけたら () に ○ をつけましょう。



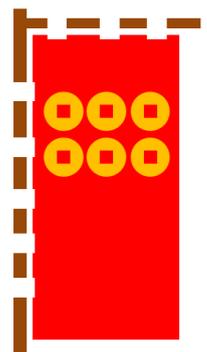
五輪塔 須玉町西川遺跡 (北杜市)

()



六道銭 二本柳遺跡 (南アルプス市)

()





四角いお金は江戸幕府が造ったよ。

甲州金も出土しました。



丸いお金は甲州（山梨）で造ったよ。



虫めがねで見てね！



② 富士山は2013年に世界遺産に認定されました。古くから、人々は富士山には神様が住むと考え、お金を神様に奉納する（ささげる、お供えする）習慣がありました。このお金（銭貨）の展示を見つけたら○をつけましょう。

()



富士山吉田口登山道関連遺跡
5合目地点（富士吉田市）

<メモ：スタンプを押してもいいね！>

<ワークブック改訂版作成にあたって>

- ・当館の展示内容と対応している学習ワークブックです。子どもたちが、授業での学習内容と本館での見学が別々のものにならないように、できるだけ教科書で取り扱っている学習内容と関連させるようにしました。
- ・当館では、本物にふれる見学や体験活動を重視しています。博物館や古墳の見学の際に、ワークシートへの記入に追われて、じっくりと展示内容等を見学できない、ということがないようにと考えました。
- ・短時間で見学される学校におかれましては、当日にワークシート内容の全てを扱うのではなく、見学の際に取り組む箇所と、学校にもどってから学習のまとめとして扱っていく箇所を、子どもに指定して取り組ませることが望ましいかと思えます。
- ・見学に関わる内容が既習であった場合は、教科書や資料集で学習したことを実際に自分の目で確かめる学習とし、これから学習する場合は、学習への動機付けとなるような活用をしていただければと考えています。

参考資料

- ・山梨県立考古博物館 学習用ワークブック（改訂前）
- ・山梨県立考古博物館 見学の手引き
- ・山梨県立考古博物館 常設展図録
- ・小学校学習指導要領 社会編
- ・小学校教科用図書「小学校社会6年」 各出版社
- ・中学校教科用図書 社会科歴史分野 各出版社

学習ワークブック 改訂版

山梨県立考古博物館

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

FAX 055-266-3881 FAX 055-266-3882

平成 28 年 1 2 月 1 日 改訂 1 版発行

令和 2 年 2 月 2 8 日 改訂 2 版発行